

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人秋田大学

1 全体評価

秋田大学は、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げており、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、さらに、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進することにより、全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人の育成を目指している。第3期中期目標期間においては、教育の質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、入試制度改革等に持続的に取り組むため高大接続センターを設置するとともに、秋田大学COCキャリア認証プログラムを開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- ボツワナ国際科学技術大学内に秋田大学事務所を設置しており、南部アフリカ地域での調査研究・教育活動や、テレビ会議システムによる秋田大学学生への遠隔授業などを実施するとともに、事務所に担当教員を交代で駐在させ、南部アフリカ地域での活動のために積極的な活用を図るほか同事務所を研究拠点としたコンソーシアム（秋田大学、東京大学、早稲田大学、北海道大学、九州大学、ボツワナ国際科学技術大学、テテ工科大学、ザンビア大学、ヴィッツ大学、JICA、JOGMEC、JCOAL）を形成している。

（ユニット「資源学分野を核とするグローバル化の推進」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 秋田大学みらい創造基金の新たな寄附獲得に向けた取組

基金のパンフレットを更新し、写真を用いて具体的な用途の例を紹介するとともに、基金ホームページをリニューアルし、寄附申込方法が一目で分かるようページレイアウト等を変更したり、事務担当者を研修に派遣し、准認定ファンドレイザーの認定資格を1名取得させるなどした結果、平成29年度は376件、約2,960万円の寄附を受け入れ、平成33年度末までに5,000万円以上受け入れるという中期計画を達成している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 学生の英語力向上のための特別プログラム「イングリッシュ・マラソン」の実施に伴う参加学生のTOEICの点数向上

学生の英語力向上のための特別プログラム「イングリッシュ・マラソン」を平成29年度から本格的に開始し、「ALL ROOMs」での週3回以上のトレーニングの実施、マレーシアのマラヤ大学（26名、12日間）及びカナダのビクトリア大学（4名、25日間）への短期留学、短期留学後もTOEIC講座を通じて学習を続けた結果、プログラム参加学生のTOEICの平均点は、開始前の537点に対してプログラム終了後は662点となり、125点向上している。

○ 高大接続センターによる取組

入試制度改革等に持続的に取り組むため、高大接続センターを設置し、高大接続教育部門・アドミッション部門・広報推進部門の3部門を設け、高校と大学の学びの接続、アドミッション・ポリシーを踏まえた入学者選抜方法の研究・開発、秋田大学への入学希望者に対する広報活動について、一体的に取り組むことを目的として活動を開始しており、平成30年度入学試験において、全学部の志願者数合計が5,608名となり、平成29年度と比較して1,990名増加しており、学部別の志願者数は、国際資源学部が509名（136名増）、教育文化学部が1,250名（380名増）、医学部が1,610名（367名増）、理工学部が2,239名（1,107名増）となっている。

○ 医理工連携部門の新設による産学連携の強化

医理工連携を推進するため、従来、産学連携推進機構の産学連携・共同研究部門で担っていた医理工連携分野を部門として独立させ、平成29年4月に医理工連携部門を新設し機能強化を図っており、その結果として、産学連携推進機構の特任准教授をコーディネータとして申請した「あきた産学官連携未来創造研究事業」に2件採択されており、今後は、医学系研究科と理工学研究科の研究者シーズ集を整理するなど外部資金の獲得と研究開発成果の社会実装を進めることとしている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 女子学生に対するキャリア支援

女子学生へのキャリア支援では、2年次生にキャリア及び男女共同参画に関する講義を実施、5年次女子学生にキャリアパス設計相談会を開催、医師としての働き方の多彩なロールモデルを提示した医学生・研修医をサポートする会を開催するなど、積極的に取り組んでいる。

(診療面)

○ 専門医育成確保に向けた取組

新専門医制度について、あきた医師総合支援センターと共同で説明会の開催やウェブサイトの実等に取り組んだ結果、58名（目標人数より33名増）からプログラム登録され専門医の確保につながっている。